

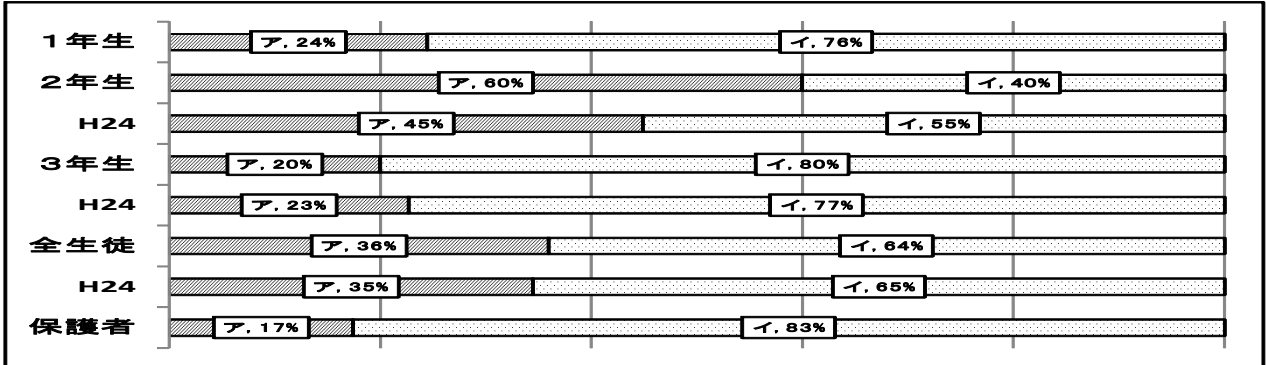
# 授業に関するアンケート

平成25年7月実施(1年49人, 2年50人, 3年40人, 計139人, 保護者109人回答)

1 どの座席が良いと思いますか？

ア 全員が前(黒板)を向く座席(一斉型)

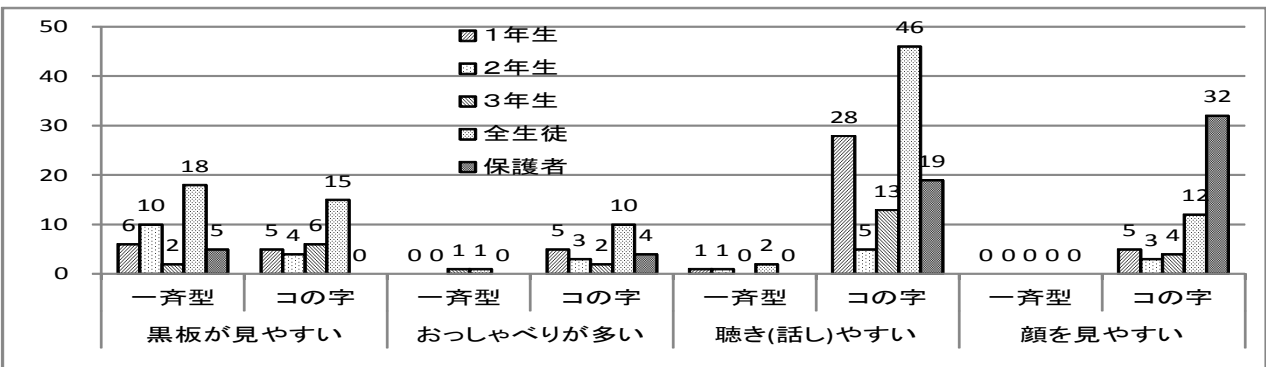
イ 「コの字」型の座席



※ 「H24」の数値は、平成24年7月実施の調査結果を示す。

## 考察

- ①「コの字」型の座席を支持する割合が最も高いのは、保護者(83%)であり、3年生(80%)、1年生(76%)、2年生(40%)と続く。
- ②1年生が「コの字」型の座席を支持する割合(76%)が比較的高いのは、昨年度から小学校でも「コの字」型座席を導入していることと大きな関連があると思われる。
- ③2年生の「コの字」型座席の支持率(40%)は、昨年(55%)よりも低くなっており、2年生の学び合いに課題が残る。「コの字」型座席の良さを理解・実感させ、「きき合い、学び合い、支え合う協同的な学び」を推進・充実する必要がある。
- ④3年生の「コの字」型座席の支持率(80%)は、昨年(77%)よりも若干高くなっている。
- ⑤保護者の「コの字」型座席の支持率(83%)は、昨年12月調査(74%)よりも高くなっている。「コの字」型座席の良さを理解する保護者が増えていることがうかがえる。



ア 「全員が前(黒板)を向く座席」(一斉型)が良い理由

<生徒>

- ①集中できる。勉強しやすい。(5)
- ②机移動するのがめんどくさい。(2)
- ③清掃の時に席がこんがらがう。(2)
- ④一人の方が落ち着く。
- ⑤小学校でもずっとこの形だから。

<保護者>

- ①「コの字」型は、夏場は隣同士くっつきすぎて暑いし、体臭も気になる。側の人がおしゃべりすると集中できない。
- ②「コの字」だと隣の人が近すぎる感じがする。
- ③集中できる。
- ④「コの字」だと体が斜めになり、姿勢が悪くなっていたので…。
- ⑤親としては、「コの字」はなじみのない座席配置なので。

イ 「コの字型の座席」が良い理由

<生徒>

- ①グループ活動がしやすい。移動しやすい。(15)
- ②慣れたから！授業を受けやすく感じる！(4)
- ③真ん中に広いスペースができる。休み時間とかコの字の方が楽しいから。
- ④集中しやすい。
- ⑤全員が前を向く座席は、隙間があまりなく暑苦しい。コの字の方がすっきりしている。

<保護者>

- ①全員が前を向くと前の人をつついたり、前の人に隠れていたずらをしたりするのは？(2)
- ②参観時の印象で、受ける授業ではなく、学び合っていると感じた。(2)
- ③授業に集中できる。(2)
- ④より多くの生徒が学習に積極的に参加できるようになったと思う。(2)
- ⑤みんなで一緒にという感じがある。前向きだと個人という感じ。
- ⑥ずっと前を向いての授業が当たり前と思っていたら、「コの字」型の授業の様子を見て、何だか発想の転換で、教室の雰囲気も明るい感じていいなと思います。

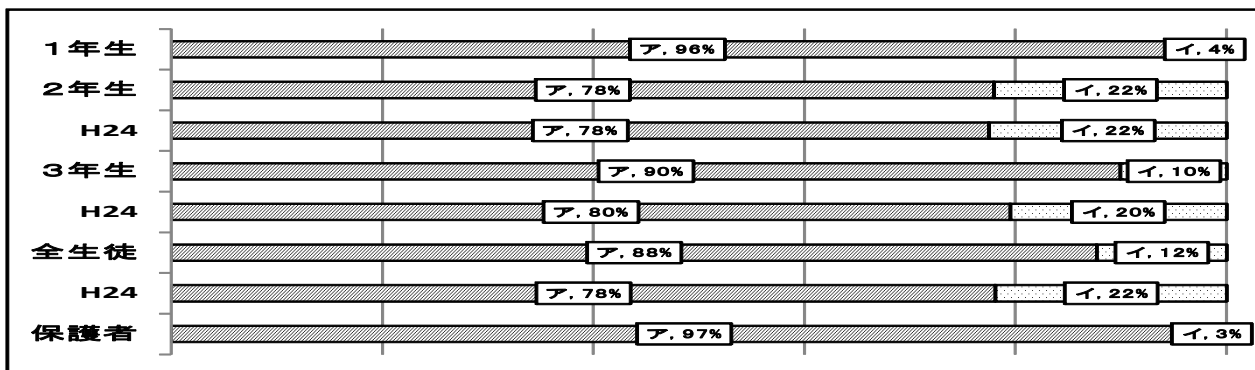
考察

- ①「黒板が見やすい」の理由を挙げたのは、全校生徒で一斉型が18名、コの字型が15名で大差はない。3年間経験した3年生は、一斉型が2名、コの字型が6名と逆転しているのは興味深い。本校のコの字型の前後の重なりは、2名であり、一斉型にすると4・5名の重なりになる事を考えるとコの字型の方が黒板が見やすくなると考えられるので、検証が必要である。
- ②コの字にすると「おしゃべりが多くなる」の理由を挙げたのは、全校生徒で10名(7%)である。おしゃべりをするのは、座席配置よりも本人の意識や課題設定に原因があるのではないか？
- ③「き(聴・訊)きやすい、話しやすい、学びやすい」「全員の顔や表情が見やすい」などの理由を挙げたのは、コの字型が圧倒的に多い。
- ④一斉型を支持する理由には、「一人が落ち着く」「机移動がめんどくさい」など、他人とのかかわりが苦手で、机の移動を面倒がる傾向がうかがえる。その一方、コの字型を支持する理由には、「グループ活動がしやすい、座席移動がしやすい」など小グループ活動(協同的な学び)を積極的に受け入れている様子が見える。

----- 佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から -----  
 この字型の座席配置は対話的な活動に都合がよい。この配置は、子どもが互いに聴き合うためである。子どもの発言は、小学校低学年から、教師に向けられ、教室のあなたたちに語られていない。コの字型は「発表している人の顔が見えるから」というよさもある。お互いの発言をきちんと受け止め合うことは対話的实践において重要な要素である。

2 小グループ活動を行った方がいいですか？

ア 小グループ活動を行った方がよい    イ 小グループ活動は行わない方がよい



考察

- ①小グループ活動を支持する割合が最も高いのは、保護者(97%)であり、1年生(96%)、3年生(90%)、2年生(78%)と続く。
- ②1年生が小グループ活動を支持する割合(96%)が高いのは、「コの字」型座席と同様に昨年度から小学校でも小グループ活動を導入していることと大きな関連があると思われる。
- ③2年生の小グループ活動を支持する割合(78%)は、昨年度と同じであるが、3年生は昨年度(80%)よりも10ポイント高くなっている。
- ④生徒、保護者共に小グループ活動を支持する割合の方が、「コの字」型座席を支持する割合よりも高い。「コの字」型座席は好まないが、小グループ活動を好む生徒や保護者が多いことがうかがえる。

ア 小グループ活動を行った方が良い理由

<生徒>

- ①相手の意見を聴ける、言える。みんなで話し合える。学び合いができる。分からないことを訊ける。教えてもらえる。考えやすい。(103)
- ②先生にはききづらいが、友達と相談して授業に取り組んだ方が分かりやすく楽しい。人数が少ないので、みんなの意見が聴ける。(5)
- ③助け合ったり、協力し合うことができる。(4)
- ④楽しいから。(2)

<保護者>

- ①教え合える。話し合い、意見交換できる。助け合える。相談できる。他の人と一緒に考えることができる。みんなが授業に参加できる。いろんな考え方・アイデアが出て良い。(50)
- ②普段、消極的な生徒も参加せざるを得ないような状況になるので良い。集中できる。(2)
- ③学力の底辺を上げる為に良い。

イ 小グループ活動は行わない方が良い

<生徒>

- ①グループ活動をして話せる人がいなかったりしたら意味がないから。きき合いできない。(4)
- ②隣の人や近くの人にきけばいい。イチイチ机を移動する時間ももったいない。いちいちグループに直すのが難儀。(6)
- ③おしゃべりが多くなる。(3)
- ④自分の意見を言うと間違っていると一方的に攻められるから。
- ⑤答だけを見ようとする人がいるから。
- ⑥人数が少なすぎて嫌だ。

<保護者>

- ①イスと机を動かす回数が多い。
- ②リーダー同士の争いが無いのか？

考察

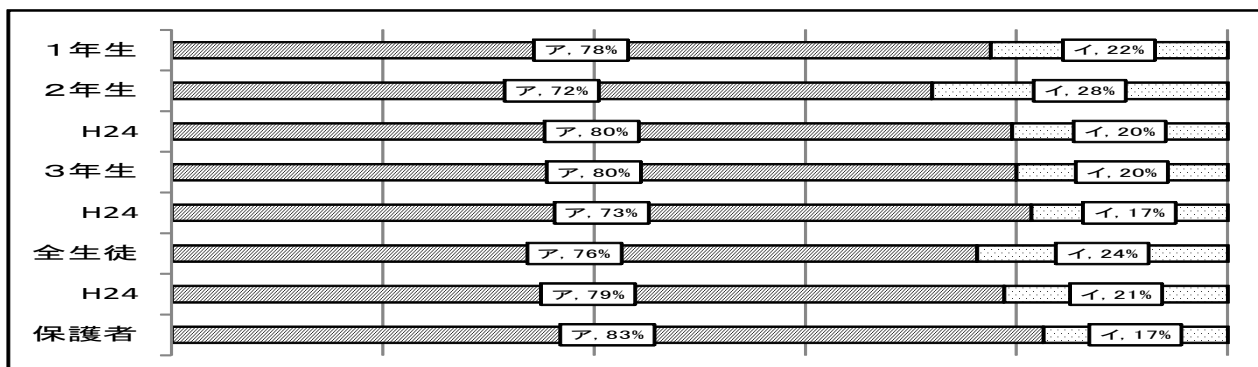
- ①小グループ活動を支持する理由に「相手の意見を聴ける、言える」「話し合える」「学び合える」など学びに関わる理由が生徒(103)、保護者(50)共に最も多い。
- ②小グループ活動を支持しない理由からは、「きき合いできない」など他とのかわりが苦手な移動を面倒がる傾向がうかがえる。
- ③小グループ活動の良さを理解・実感させ、「きき合い、学び合い、支え合う」ためのケアリングを工夫するとともに、<学びの作法>を徹底したい。

佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から  
グループ活動がうまくいくには、子ども同士の「あいだ」に間違いを認め、依存した時に丁寧にケアしてくれる人間関係が必要である。  
一人では解けない子どもが自ら他者に尋ねることから始まる。他者に依存できる子どもは自立できる。

<学びの作法>

- ルール1 分からなくなったら仲間に「教えて」と恥ずかしがらずに訊く。
- ルール2 訊かれた子どもは、自分のアイディアを惜しみなく伝え、相手が納得するまで説明を繰り返す。
- ルール3 できる子どもから「教えてやる」と言ってはいけない。

- 3 分からないことがあった時、「どうするの?」とか、「教えて?」と他の人に訊いたり、他の人の意見に「どうして?」とか、「もっと詳しく話してくれる?」などと、互いに聴き合っていますか?  
ア どちらかと言うと、互いに聴き合っている イ どちらかと言うと、互いに聴き合っていない



## 考察

- ①「どちらかと言うと、互いに聴き合っている」と回答した割合が最も高いのは、保護者(83%)であり、3年生(80%)、1年生(78%)、2年生(72%)と続く。また、3年生(80%)は昨年度(73%)よりも高い割合を示し、2年生(72%)は昨年度(80%)よりも低い割合を示している。ここでも2年生の「きき合い、学び合い、支え合う協同的な学び」の課題が見え隠れする。
- ②「どちらかと言うと、互いに聴き合っている」と回答した保護者の割合(83%)は、昨年12月調査(73%)よりも高くなっている。

### ア どちらかと言うと、互いに聴き合っている理由

#### <生徒>

- ①分からなかったら聴かないと分からないままだから。理解するため。(56)
- ②相手に教えたら、自分も理解できるからいい。相手が分かりやすいように伝えている。(9)
- ③分からないことがあったら、気軽に聴けるし、答えてくれる。(6)
- ④みんなの意見を聴きたいから。みんな意見を交換しているから。(5)
- ⑤小グループだからきき合える。質問しやすい。グループ活動を積極的に行うため。(3)
- ⑥先生より教えるのがうまい。生徒同士の方が聴き合いやすい。(2)
- ⑦互いの得意、不得意があるから。

#### <保護者>

- ①家でもよく質問する。よく話す。(7)
- ②授業参観を見てそう思えたので。子どもから聞いて。(5)
- ③小グループだと自分の気持ちや考えを話しやすい。聴きやすい状況にある。(5)
- ④自主的に発表する性格だから。
- ⑤分かりたいから。楽しいと言っていた。
- ⑥そうであって欲しい。

### イ どちらかと言うと、互いに聴き合っていない理由

#### <生徒>

- ①恥ずかしい。聴きづらい。恥ずかしくて意見を言おうとしない。(7)
- ②自分で頑張って考える。わからない時は自分でやる。(7)
- ③おしゃべりしたり、授業に参加していない人がいるから。(3)
- ④聴くことがない。聴かなくても分かるから。(3)
- ⑤聴いてこないから。相手もできているから。(2)
- ⑥「教えて」と言っても教えてくれない。自分の意見を聴いてくれない。(2)
- ⑦そんなに親しくないし、説明するのも下手だから。
- ⑧聴き合うひまがない。

#### <保護者>

- ①自分の意見を積極的に言えるタイプではない。自ら聴いたりすることが少ない。(4)
- ②短時間の参観のため。(2)
- ③知りたいという欲求が低い。

## 考察

- ①「どちらかと言うと、互いに聴き合っている」と回答した理由からは、「分かりたい、理解したい」という気持ちが強く、小グループで積極的に聴き合い、学び合っている様子が見える。
- ②「どちらかと言うと、互いに聴き合っていない」と回答した理由からは、誰かに聴かなくても分かるから自分一人で課題に取り組む生徒がいる一方、分からなくても誰にも聴かず自分一人で頑張っている生徒の様子が見える。
- ③「聴くのは恥ずかしい、聴きづらい」「教えてくれない、聴いてくれない」と感じている生徒がまだいる。「聴き合う関係(学級)づくり」を一層強化し、一人ひとりの意見が尊重され、間違いや多様な考え方が受け入れられ、生徒同士が支え合い、つながり合う関係(学級)づくりを目指したい。
- ④保護者は、家庭での状況、子どもの性格、子どもとの会話や授業参観の様子から判断している。家庭でも「きき合い、学び合い、支え合う」ことの大切さを話し合い、共有して欲しい。

### 佐藤雅彰著「中学校における対話と協同」から

#### <話し合いの基礎>

ア 人の話を互いに聴き合う(聴き合う関係をつくる)。

イ 他者の意見や考えに敬意を払う。

ウ 自分の考えの根拠や理由をもつ。

エ 根拠や理由をベースに自分の言葉で表現する。

オ 他者の意見に対して反応する。たとえば、疑問があれば質問する。わからなければ「わからない」と。「そうか」「なるほど」「エ～」などの響き合う言葉やうなずきを。